

令和7年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	メリー★ポピンズ 清瀬ルーム
施設所在地	東京都清瀬市松山1-40-2
法人名	社会福祉法人どろんこ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音 ～本物の音に触れる～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・無表情だった0歳児が、職員が鳴らしたリップロールの音を聞いて笑顔になり、それをきっかけに擬音に反応し、表情が出てきた
- ・あわ組ひえ組の発語のきっかけは物の音や動物の鳴き声なことが多い
- ・音・音楽が聴こえてくると興味を示し、表現を楽しむ子が多い。もっと興味関心を広げたい
- ・音の違い（大小・速い遅い・強弱）を知るきっかけになればいい

2. 活動スケジュール

①音を知る・興味をもつきっかけ作り【7月～9月】

0歳児：いろんな音に触れる、オウム返ししやすい音は何？、自分で発する音は何？

1歳児：動物の鳴き声「どんな風に鳴くかな？」

2歳児：水の音、車の音「これってどんな音？」、身の回りの音に耳を澄ませてみよう「静かにしてみて、何の（どんな）音が聞こえる？」

②本物の楽器に触れる【10月～12月】

- ・ギター、ハーモニカ、フルート、ウクレレなど本物の楽器の音を聴く
- ・近隣の高校の吹奏楽部に来てもらい、本物の楽器を聴く・見る

③実際に楽器を作ってみる【1～3月】

- ・マラカス、太鼓、ギロ、カスタネットなど楽器を実際に音楽に合わせて演奏してみる
- ・廃材を使って手作り楽器を作る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【7～9月】

- ・擬音やオノマトペが出てくる絵本を用意した
- ・遊びや生活の中で音に触れた時の反応や言葉を意識していった
- ・空き箱で太鼓を作り、音楽に合わせて自由に表現することを楽しむコーナーを設置(空き箱・新聞紙・ガムテープ・ビニールテープ)

【10～12月】

- ・保育者が夕方の時間にハーモニカやフルート、リコーダーなどの楽器を実際に子どもたちの前で演奏したり、触ってみたりする機会を設けた
- ・クリスマス会のときに保育者と保護者によるカリンバの演奏とハンドベルの演奏をした
- ・近隣高等学校の吹奏楽部の学生に来てもらい、演奏を聴いたり、楽器紹介や実際に楽器に触らせてもらう経験をした

【1～3月】

- ・購入した楽器（木製レインスティック、打楽器セット（タンバリン、木の魚、単音バレル、三角欵、ガラガラ、持ち手つきベル、砂の卵、サンドハンマー、カスタネット、エコベル、ナツメボード、リズムスティック、ダブルホーン）、ソリッドドラム、キッズ和太鼓、エッグシェーカー、ミュージックパッド）で演奏をする（ピアノ、CDデッキ、CD）
- ・保育室の一角に楽器コーナーを設置し、子どもたちが好きな時に演奏できるようにした
- ・「どうぶつたちのおんがくかい がっきをつくろう！」の絵本を参考に、廃材を使って太鼓、ギター、馬のひづめ、ギロの楽器作りをし、作った楽器を用いて、発表会で保護者の前で演奏をする（ひも、はさみ、紙コップ、テープ、わりばし、ふうせん、ガムテープ、段ボール、輪ゴム、水性ペン）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【7～9月】

- ①保育者の演奏するハンドベルを聴く
- ②空き箱で太鼓づくりをして叩いて遊ぶ

【10～12月】

- ①保育者がハーモニカ、リコーダー、フルート、カリンバなど本物の楽器で演奏し、音を聴いたり、触ったりした
- ②近隣高等学校の吹奏楽部の学生に来てもらい、演奏してもらったり、楽器を触らせてもらった

【1～3月】

- ①楽器に触れ、鳴らしたり叩いたりして遊ぶ
- ②廃材で楽器作りをし、発表会で演奏をした
- ③保育室の一角に楽器コーナーを作り、自由に楽器に触れられるようにした

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【7～9月】

① 『空き箱太鼓』 空き箱太鼓を自ら棚から出して手やバチで叩いて音を鳴らして遊び、曲を流すと保育者や年上児の叩き方を真似して遊ぶ姿もあった。夏の時期でもあり、お祭りの雰囲気も味わうことができていた。

② 『ハンドベル』 保育者がハンドベルを鳴らすと、「どこから音がでているのか？」不思議そうにベルを見つめたり、「次はどんな音かな？どうなるのかな？」とわくわくした表情で釘付けになる姿もあった。『きらきら星』が流れると笑顔になり、歌いだす子もいた。初めて聴く音に心が動かされている様子が見られた。

今まで見たことのない楽器を見て、驚きやわくわくした表情をし、新しい物や音に触れることへの興味関心を感じられた。演奏が始まると手を叩いたり体を揺らしたりしてリズムを取る姿や、歌を歌う姿があり、楽器の生の音を聴きながら表現を楽しんでいた。一方で、楽器を間近で見て音を聴いて怖い（不快さ）と感じる子や「うるさい」と表現する子もいた。



【10～12月】

- ① 『本物の楽器に触れる』 楽器を持っている職員が日替わりに楽器を子どもたちの前で演奏したり、触らせてもらったりした。聴きなれない音が聴こえてくると「なんだ？」と音の鳴る方を見たり、「見たことある」と言う子もいた。フルートの演奏前には絵本「やまのおんがくか」を読み、絵本の中で小鳥が吹いている楽器が出てくるとより興味を示していた。「こんな音だったんだ、フルートって」と耳を澄まして聴いていた。
- ② 『近隣高等学校の吹奏楽部の演奏』 最初は何が始まるのか楽器を持っている学生たちを不思議そうに見ていたが、実際に演奏が始まると手拍子をしたり、知っている曲は一緒に歌ったりして楽しんでいた。チューバなど低音が鳴る楽器には後ずさりをして少し驚きや怖さを感じている子もいた。実際に楽器を触らせてもらえるとドキドキしながらそっと触ったり、トランペットやホルンのベルの穴に手を入れてみたり、初めての経験に目を輝かせていた。



【1～3月】

① 『楽器』 楽器を自由に持ち、思うままに鳴らして楽しんでた。うまく使い方が分からなかったり、きれいな音が鳴らないと楽器を変える姿もあった。また楽器によって音色の違いがあることに気づき、耳を澄まして音を聴いている子もいた。保育者が正しい持ち方で音を出すとまた関心を示し、どうやってやるのか聞きながら自分でも挑戦しようとしていた。2歳児は正しい持ち方や使い方を覚えると、1歳児がタンバリンをバチで叩いている姿を見て「それは手で叩くんだよ」と教えてあげている姿もあった。

友だちや保育者と同じ楽器を鳴らすことを楽しんだり、曲に合わせてリズムをとって鳴らす楽しさを感じていた。普段は控えめな子も楽器を持つことで体を揺らしたり、転がったりジャンプをしたりして全身で表現している姿も見られた。

2月後半に保育室の一角に楽器コーナーを設置し、子どもたちが好きな時に楽器に触れられるようにした。

② 『楽器作り』 廃材を使い、2歳児が楽器作り（太鼓、ギター、馬のひづめ）を作った。ギロも作ったが段ボールの湿らせ具合が難しかった。子どもは「カエルの声がする」と驚いていた。馬のひづめも「本当に馬の音みたい」と実際に鳴らしてみても楽器から動物が連想でき、喜んでた。作った楽器は発表会で保護者の前で「おもちゃのちゃちゃちゃ」「山の音楽家」の曲に合わせて演奏した。



5. 振り返り

< 振り返りによって得た先生の気づき >

- ・ 楽器で遊ぶ際CDデッキで曲を流しているが、保育者がピアノで生演奏をしているときのほうが子どもたちはより音楽や楽器に興味を示していることがわかった。
- ・ 楽器の使い方を保育者が子どもたちに示したことで、子どもたちも楽器の使い方を知り、覚えていった。さらに年上児が「それ使い方が違うよ」と年下児に使い方を教える姿もあり、異年齢ならではの姿が見られた。
- ・ 楽器作りは子どもが興味を示し作ってみたが、作る際に加減等が難しく成功しなかったものもあった。
- ・ 廃材等で楽器を作らなくても、散歩先で木や枝を楽器に見立てて演奏ごっこを楽しむ姿もあった。本物の楽器じゃなくても表現することを楽しみ、音楽のない戸外でも音を楽しむことができることがわかった。